濟衆録

五

ヤ 3
228
No. 5止

漁用衆録

五

ヤ武3
228
ラ止

清衆録 さとの五

門 武
蔵 228
巻 ノ上

慶應義塾図書

群書類從 卷五

人體篇

骨部

骨部第壹

此編ハ骨ト靭帶トヲ論ス靭帶ハ骨ヲ互ニ連繫シテ一骨體ヲナシ而テ骨ノ用ヲ爲ス是物ヲ主セシモノ柳ト骨トハ自ラ殊ル樣ニシテ是物ヲ高カラシムルモノ形狀

して腔殼をなしその内より膜髓を出だす故に
骨を分けて二部となす蓋し一を頭蓋と云ふ一を面骨と
云ふ頭蓋骨は七枚をもてなされ面骨は十四枚をもてなされ
骨は別にたるものをもてなすなり上水腔骨節骨をさい所
蓋骨は前を高くして後を卑くなし其部は面部の丹をなすなり
既蓋骨を總称するは蓋部と痘部とを分ちたるなり蓋部は合して
骨殼を似て形を構成する球をなす部をなすなり其
面部なるは骨殼の骨なるものなり膜の骨なるものを
合称する各骨は奇と偶とあり偶とは頰骨顴骨の類
なるを偶骨とするものを云奇とは痘骨額骨鼻骨の類
なるを云なるなり一骨なるなり故に痘骨なるなり
右左なるなり偶骨は左右相接して恰も一骨の
如くなるなり表面は陰し内面は陽し奇骨は両骨あるも

ていつれも一端は底部より走り湾曲して奇骨に合して腔
をなし卵殼のごとくなるなり内は膜を以ておおひ此殼蓋
骨の硬さは高しなり動中は骨髓の硬さは如しなり
骨は骨を脆弱なるし腔此骨顴骨の部分なるなり
頭の骨蓋骨を分けて内骨外骨となす蓋骨は海綿質なる
なり内外は甚だ硬くなるなり外骨は堅くして硬骨の質を
多く具し内骨は薄くして芭骨類骨に似たるなり
内骨は骨なり内外の骨を隔てる海綿質は長骨此
髓質は脂なるなり骨を隔てる海綿質は長骨此
髓質は脂なるなり骨を隔てる部は脂肪を含む常
る稀汁を高きなり其汁血脂を搖をい常
は赤色を帯を海綿質中節脂肪なるを絡なるなり蜜目をあ
め孔節脂細なるなり此細管は搖して絡なるは一
節脂なるを海綿質中の内骨を通し内骨外骨を鑽り

て之れを引き出すに至る大靜脈の幹より出でを接し也皮膚
きれめ既蓋骨顆頂の為に其ハ為に骨以外骨骨らさて浜綿
骨を為骨らけハそれ為骨を開骨を以ても骨し為内ま
て以外骨らより表へる顆顆骨枕骨の前さるハ外
傷を防くより傷れるるる骨しらをハ外傷の患なるるむ
為て ハ傷傷矢ものてる骨蓋接しをより正面を塞をる
所るてハ以骨うをらきて直接骨をるれるる
既蓋骨の接隙ハ或ハ蓋脚ありて等強をる所あり或ハ鑷
次強をる所ある或ハ接濕ふをおして硬骨の力をて為
く接骨をる所ある既蓋の外面のを骨の骨衣もて接れ
のけられるるれを傷しを接れへハ別より微強骨の板骨
衣るを裏ものて接隙のるより為て食いるるを骨を骨骨
ハ故ら強くしを骨ハ既蓋骨の後骨より骨衣をもて骨一

の結合所とを為しを既蓋骨の内面ハ内骨衣なるし硬脳
膜ものをより代るを脳膜をの内より毫ものを為骨るる
程より充実ををハ骨れより押さをて既蓋骨の内面ハふ
をを四の所ある骨ものをハ馬形ものより指押痕鶏冠を
骨の為を骨けを為数骨を骨ものて神経血脈を通をれより
て神経の通をる骨を底へ通して孔四し動脈骨も為形
四しけをるを静脈骨の内るを外より通をる者ものて
ハ大小多骨為形骨して中ハ全くなるものあを
硬骨ハ骨より既蓋の硬部をなるをもの為強をもの既
蓋骨の形も大骨るをるを形るものを骨ハ他の既蓋底骨ハより
接し面底骨も為ものを通ハ既蓋骨の環空を三ものを空をる
う面大人の底骨ハ為らさるより辨別せ既整骨枕骨の為
部ものをうより細膜まてを接をを為をを骨を為らし也

鑿骨枕骨ハ各矣ニシテ只相接セシメ密着シ難シ
骨ソムメリンゴニシテ
ヲ
ヲ
脊椎骨ハ
椎骨ハ
人ノ上成字脱カ
骨ハ
ヲ
ヲ
ヲ

大腿の骨を載せ下部の面を小腸の第二回を載る
上部のものを脊椎面部外の面を脊椎蓋被をて
ハをぬを八骨のものれをも下を八第四角ありは依類
をれを第二をを此かしをを中をを脊椎
鞭と云者を此鞭をを脊椎を脊椎
項靱帯粘着を脊部の左右の端ハ第を見付をくをを
て要を脊椎をしてをを程度をを度らを新を
頂骨の後部を接しを内ハ顎顱骨の乳突部を接し也脊
椎骨の軸部をの端ハ礎部を接し脊端ハ脊部を接を
ハ上下の多面を云をし下面ハ楕円球を似多節を
てをの表面を滑膜の軟骨をて表ハを第一頸椎のあ
を接を軸面をを形る此を左右ををあらい
て滑しを出を脊椎上を出を出をして挟

ら方を節の後方を八滑膜をを節の方接を完を
の所ををを節完後節完を云節完ハ内を上を
命をて骨を者を第十二對神経を通を右を
ハ成人四しをを第を合を方を成を海綿中を
を方静脈完をを八を成を骨を後節完ハ方ハ
静脈のを通を通を左側をハ右側をハ方を
を通を仮を方を方を脊椎をを上面ハ楕
を陰延を方を是を第を各突起を頸静脈突とを方仮
らを節完の口を骨を此軸部の内面ハ多方後頭大孔
の仮孔ををの外孔を米目此の彫窪を彫窪の後
端を三角此を突出を方所を方を中を窪を中を静脈
横洞を通を

脊椎骨の鑿部即ち鑿骨と云者ハ方の一を方形方の種

こゝろから故に物に驚いて面をまゝ各所ゆむもて是角
くの方をあを恰当の角一もあるを蝴蝶骨と云ふ蝴蝶の羽に比して
蝴蝶骨と云ふ是骨已つゝ上に越え体のうしろ半分
似たる所の面とその外方似て蝴蝶くもあるを此を考へ
鑿骨と云ふ又ハ鑿とハ斧を以て鑿を打て折うんと
て枝中に挿入れる事也是骨の面中に挿
入しあを也琴くあり又耳の孔鑿骨を体と越えて別
くなる体を既の中に侵して底骨を高ハけて
部礎部とあるハさる為ゆゑ体内空ゝして洞ある正
中ゝを正を隔てゝ左右の部とを各小穴ありて
面にひらく体の外形略骰子に似て六面ある上面を
を右の面ハ眼に接ゝ面と下面を鼻内に向て接面ハ
後部骨に接して大人に成ると一骨となるをされを上

面ハ顎のをくに窪くその窪を所く眼窩を高を高ハ
出を部分部分を云顎の後を上ハ耳くに出ゝて後頭
ゝくその厚さハ後ゝ薄さまに成て鉋刃延をもて接
の後ゝハ多ゝ接部の礎部に合ゝて敵面をなを顎の
部に鉋部ゝを正を顎結と云結の左右に乳頭状の
丘ある要を小丘と云以を小さゝ常ゝ多ゝ中に
をゝ多くゝて小廻ゝを出る鉋刃と連合ゝて小穴を合成
し内行鉋部脳を通を鑿骨体の側面ハ高を上と鉋に
向ひを形望ある為て鉋部脳を載を鼻内に鼻ハ多ゝ体
の面に八中央に陰線を出ゝ鼻骨の左右に接
しを陰線を挿して部線を左右に是を左右に
を下面ゝ多ゝ面のをく中央に鼻冠に
に別ゝ鶏冠ハ多面の陰線に合を

鑿骨の翅は三對あるて左右より体を形成する也
とい是を小翅大翅翅脚延と別称也小翅は多ち第一對
にして端尖是空飯脚翅等も云鑿骨体の上面の部
らを各二根を以て生じその二根は合して一穴を作る
ものを視神経孔と云故に視神経孔と云ふ翅は上面
下面あるを以て是も略滑らかなる端は背方脚を生じ接
端は前方をしまして下面は角ばりしかも丸形しかも内端
と尖は故を後端と内端五合を為処を為探とは對
て鋭端をなし中は体の小丘を合して穴を為者
あ要外端も故五して蹴るとく硬膜は緊接を第二對
の大翅を花くして鑿骨の偽面を生じ形ち外へは
を上に向て湾形ぬを三面三端はあり下延をへし内
面脳敵に接する面は押痕密線を動りを外面も動動に接する面ちさく紋

内面は脊しく上らを下は凹陸しあるを塩ちへは湾
窪を既蓋の外面歪の中横は窪延線を
を下ぬを上下の部は部は略既蓋骨の
極中は高形眼窩面は面平滑泥の四角ぬ面は下して眼窩
外部の後部をなしを三端をその信是は後ぬて別くを
上端は端後端を五しし形を生て鈎鉗の脚をなし
ぬを生或は方を方端を云ものあるを生ものうくも
大翅の端を生して張を脚は略蹄蹠の形を成る鈎歯
脚のをくなる生上端は方翅の根を生上の部を云
その外部は顎骨と合して其を外へ面を生は頬骨と接
しい要も稜角を生を上端の内部は故を生して小翅の
下面は形對しく一穴を生を生その形ち略三角脚を生して
上は狭くして下弧しぬを上耶嵩到と云ぬを生して眼の動

神至第三骨を神至第四眼のアフフーレテ神至及三双神至の
第一枝を出せり端ちまた二積ありて眼窩外壁の後部
を分てる大翅の窩面を經の先内面をそのあ積ハ鋭嵩
恰をなして横骨と合し下積ハ薄くして放生し上歯
骨の眼窩後端と為して相屹立しまた下眼窩裂を仍て
出裂孔をなして面眼静脈ハ窩内に入て下眼窩神至
第五第神至第二枝上顎神至頬史神至第一枝
の第二支ト又第
端の一を出して顎骨の嵩部と鄰接しその下は莊入し
一をその外方に第二下面に針状の突起を為す棘
あり是なるは以上の部に副ひて小針を突出するものあ
り大翅ハ凹部を三分を通じ是を大翅の三穴と云
第一穴を四穴と云鞘骨体の側ら大翅の根に生して
第四穴にて通じあり第神至の第二枝を通じるあ

り第二穴を稽穴と云第一穴に接してその後にあり
第三穴を小穴と棘穴を云大翅後端の内部にあるて也
下に通じ第二穴に通じ第三穴に通じ第
三穴に通じハ硬膜に入る中動脈を通じその他上端の
外尖角ハ顎顆の内左側にハ鼓穴あるて海綿質に出
る静脈を通じ左右を前人に出て左へ通じ第三
第の翅状突起ハ第一二第のみ沈るものにあらず也
下に上顎骨に沿て喉内に通ずる後面に窪あるて是を
舌脚に分ちその窪を翅窪と云外脚ハ短かく中間にやや
、弯して下端に向て左に内脚ハ狭く直にやや
、長くして後方を外に向て脚
中に通じ別にて脚を出しその口蓋骨の突起山柱
入して其端を塞く内脚後縁の上半に通じ外に上に向

ひて洞窟あるを洞窟を稍完とめ間は二穴を異し是を翅
恍窩延穴を云外穴は大翅の内面小舌骨と四骨とのみ
よ重し内穴はヒヂアニュス穴よ重き迄を神至骨拓けてうを
よめ穴は必ず要ありるを以て和名を重ねる鑿骨の体と大
翅と合して此翅恍窩延よ接をるを和名ちをめ窩延の痕
よ面横よ重をる穴瓦ちよ為生をを為ちまを翅恍窩延ち穴
為ヒヂアニュス穴と云此穴めあり内を翅恍窩延のあ端をあ
る湿内よ降をきまい是をその外門は額部脳穴の古をよ
接して是を蛇

額骨は眉蓋のあ部よあをて後眉骨を為ちを上骨質
略後眉骨を物ちを額骨をあけて額部眼窩部鼻部の三
部とちを為しその一額部は後面形恍後眉よ形をを
とせ大小歯正弯形はへと四しうを上眼窩縁左右よ

形為して弯をて峠ちへ眼窩部骨よ接を是よ接をる所
の縁三分して内ちを和ちて一分の処よ一穴を穿ちは
をけ是は切和ちを為て上眼窩の血脈神至を重をへをる
をてあをるよ洞窟ちを為て是よ代形あを為ちを上眼窩孔
は外めちへを所く俗を為て鉤場鉤嵩恍よ後をちへよ顔
骨の横端を接を額部の正面は孤隆へ眼窩孔の左上左
右よちを為しを半月恍よ隆起を形あを為を是を眉隆と云
眉隆の上一指位を隔をる所よ帝部ちを是ちれを額節と
云眉隆の内端を額節とめちよあを為て帝を三角のあ
ちを是ちを額稜を云ちを眉骨のをを生をちる所まて
面上の度狭は此大わよ為ををる為ちを為を額骨の横端を接
を形和ちを孤恍よ上と外とよ為ちよをうめて是を頬骨は接
を孤恍の外部四として頬骨の一部をちを切をを

ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

と名付て高くして額間より通りて表面ハ硬膜にて覆ハれ
て鼻内の粘膜と接せしむ此部ハ骨ハ薄く脆く殆ど紙
の如き青白色にして鼻稜の前方ハ半月狀の窩
嵌入す鼻骨ハ左右上顎骨の額起部に接す
鼻骨ハ左右鼻と鼻内及眼窩の間にあるて略其中央にて
接合し鼻を占めぬる所を云て稍上に接する所ハ
鼻骨と額骨岐骨の間を塞し所の三角を為す
左右共に其下ハ海綿質にして薄き骨の如く
て骨面海綿質の如く穿孔多き一層にして
横に額骨の岐骨に嵌入する所を云その後端ハ鑿骨小
翅の鈎鉤に接し中央鶏冠にて支へ額骨の鶏冠に

相接し骨面左右に分れ骨の孔を穿ち篩骨の孔
る所以なり是此孔下に通じて降穴を為す篩骨の下面に
左右連るその二左骨ハ篩骨の為中に為す左下して鼻の
間隔の上部を為す形を為その三角ハ骨を骨角の
稍し高くして鼻を為し高を通し更に鼻内に
通ずるものを骨角の大小多寡布置ハ定まれるなく
左ハ稍し広く云ふ孔に於て角を穿ち
し角の外面ハ凹凸を為て穿孔し角たち互
に連なりて隙ハ石垣の如くなり凹凸ハ眼窩
の内壁を為せる所骨の薄さ殆ど一枚を所なて
又左右しかの方に於ハ海綿質にて満骨に接し上の方も
缺りて額骨岐の下端に接し内に中鼻甲を為て其尾ハ
眼窩に向りて左右に高く中央後角を載て高く

骨の旁らに上顎竇と云中壁の外より外壁あり
その外側より頬骨より出でたる後の方は鼻骨体より
接し前の方の涙骨より接せらるる所へは額骨の眶部上顎
骨の眶突接し下より上顎骨眼窩面の旁線接してあれ
を塞ぎ外壁の前の毛の旁の面の相合して高く出たる
より谷と張りて骨膚をなしこれ内の大穴を高く塞ぎて
眶壁より接す
頂骨は左右両枝あり記をなしてあるなり
顴骨はいたる形ち略四角なり四端四角を別ちその
五面より成りなり外面は彎隆し中心隆起する所あり是
を頂骨節と云節の下より下端なるまの半月條あり是歯
骨枝の連續して額骨を接して歯を保毛をなして頂骨
を二部よりなり上部は小さくして下部は小さくして
部額骨鑿骨顴骨と合して半月壁をなしその下は溝
をなしなりて顴窩と云なり内面は四角にして四のかくより
て三痕あり其一は膈より押さえてその形ちの骨れ形指
壓痕なり表面あるけるその一痕はあるの紋理なり似たる筋
なりて硬膜の中動脈の蹟よりあるなりその三は二條
の靜脈洞よりしてその一條は上端の相合する所なりその
の中よりなる血管多くは脳膜の一部より
條は孤枝をなし後の下角より入りて靜脈洞の一部より
接するなる血管四端はその位置を形ばよりなりて別れは
上端をペール端と云下端を片端と云なを冠端と云後
をテムプダ端と云四角も亦あり上角あり下角後上角後下角
をなす孔よりなる冠後の面をなして四角をなして後をなす一条の和
より後を捉えてあり穴あるさまを一條よりのうあるなかう

ふたつは豆ちうを出すものある静脈の道をなすなり
顎顎骨ハ一米ハ瘤の瘤をなす一米は鬢脚を生ずる
所よりあるをもて在よりなる骨はりてその形ちは邪ゐして各相をへ
ゐるをもて骨ハよりてのみ三部よりなりて内部の外聽
道の通ずるを完ある所を鱗部と云内部の脳瘤となる
所を嵩部と云後部突起をなる所を乳酸部と云その一鱗
部ハ外聽道のうと上とよりなる外面はして岐脚を生ず
る所をもて脚の内ゲ部を硬くしてうを向いて角をし
その端は嵩を生して顎骨の横は接を脚下は嵩のもて
て下顎窩を容れ嵩のは脚の結ありてを結をなせる所あ
るを形を関節と云ありはは接して正行をる凹ある時は
ハ少を若るを者あるをもは顎顎動脈の運行をる路なる
鱗部の内面はハ若るくも脳の壁痕形をその端ちな

動脈痕をもあるをもて丁ハ頂骨は顎をなる縫ちあ形
るその二嵩部ハ硬きをもて石のをくなりて三角錐の形ちは
似をるをその元をの外は向いて尖をの内は向いて鞘のはうは
出ずる三面三端を別ずるをもて後面ハ三面中のせまきをは
て瑞堂をなしその中四は指窩をはるをもて内聽をはるを此
るをもてはうて三列の外は孤裂窩あるをその内はポルメール
の形蓋ロを見き紀裂窩ハ下は向いて先形上面は鞘は
ちは向いて傾き尖端は接ちて頭動脈の内窩を見く此
而ちをは皇ちをて外へ走をを小窩は至形蓋一皇ハかのヒ
ナアーシ神経の通ずしてその窩ちを面部はあ形をを小窩
ハ嵩部の内実は通をるハルロヒアーセをの通をる道ををを
の他骨血の外細窩の鞘内はまて通をる者鞘角あるを
あをを上端は陰起をる所ハ為ち耳の内嵩を為をる所は

而して形る下面を外聽堂と云ふ空洞となる錫〜以て
ふ安の高聲を生ずる因より生じ内より形を延して活を生じ外
聽堂の下に接〜て柱乳間穴と云者あるなるハルピアーセ
其の口に而して形る此穴に接して柱狀突起あるを内
と云突出を人まらうて長經四〜ふを柱狀突起に接
し常湟（人まらうてを常ふをあるを）骨研形をなるを所あるを頸部豚湟を云湟
内一小穴あるを（孔穴其の門口（アーケスエストイーエス））ハルピアー其
に連て常湟の尖端なる三角の部端に為て頸部の
下穴を見る〜三角の下端に漏斗狀の突あるなる蹄牛穀
の水道なる形る頸部豚穴と頸靜脈穴とを常
湟あるなるを湟内に或ハ細穴いくらもなるを蹄牛穀
の水道に連を形をあるを減に豚毛をとなるを柱乳突起に
の小穴中に抑なる此穴を安〜連〜てもの端上面のハルピ

ピ穴に出を此〜に内聽堂に通ずを豚毛を抑して
一あの穴を以て此穴〜に連ハ蓋骨の内質に入ハ一穴（部ハルピ）
穴を穴て首部を内聽堂に入ひらさ尾口を柱乳突起に
小穴に嗅を副孔を上面のハルピ中にひらく者なる
此穴に入ハ聽の孔七穴神経を出を出ちに分て通を者なる
穴蓋部の三角（部三角）の一角ハ上に一角ハ前に一角ハ後
ろに分ろを上角ハ後面を上面を合を所を云前角
ハ鱗部を合を所を云後角ハ靜脈湟の内を到を
稜角を分ける所を乳部ハ乳所物に突起を所を云
内面外面に分ける〜外面ハ形狀乳部を此部他
部の内〜堅ら内を穴して穴を穴〜鞏膜に連
乳狀突起を外聽堂との分に製紋あるを部畫を
此紋ハ骨を生〜ハ接部に連の溝を者なる

至後中小完あるて鼻部を見るに完全なるも鼻孔
よりあめ完全なる鼻孔にして四めとして硬腭膜の
鼻腔横溝を塞る所なるもの小完なるて唇弓より連
続鼻腔を閉じたるものとなる為めこれを完
全なる完全なる外面鼻梁の偏らず接続骨より接続する所より完
ひらく或いは後部骨中よりひらく鼻部の上端は頂骨
より接し接端は頂骨より接続
部蓋の七骨各相連接するより蝶形骨をもつて
略を云へば額骨と左右各頂骨の相接する和コロナード
頂骨の相接する所四角頂骨の左右相接する所五頂骨
と頂骨と相接する所ラムダ縫合と頂骨の後端を
相接する所を矢状接合と云乳頭縫合部と頂骨の後端を
故に考察一覧するに一目瞭然なる若縫合
目をもつて知るべし若縫合

骨頂骨との連接に頂骨と鱗骨に鱗骨と蝶
も鱗状縫合接するをもつて鱗接合を云形るも亦
顆顆骨の嵩部と鱗骨に蝶の連接をいう膠もて接
るりをくるを生ずるを膠接合和云形る若頂骨と鱗骨
体との連接のをいう初め繊維質にて接し次
いをの痕跡せしをうへるもの軟骨をと和云なるものよて
人若うをし骨質のいまを固まらるるは連接の所
もゆるを断く長をるより後ちて緊連性も一骨のをしま
ちを生ずる中より約額骨接は中年を経ゆるより動りてもなを
緊連せ骨部所ある内骨は外骨をを見なるて元ある骨質
も接く且を外傷を防くの為い漸なるる故より交歯物を
ちしてを接をるもをつしと見えて滑接をしし接より
て以骨をるし緊連をて初め軟骨ををし骨の化骨をるいし

形似骨点多を初多をその形へ骨高を積して形くは廣
う形多者多を八南骨の端を方はらくを形骨ありてを
を一ち多八頂骨の四角形骨ありてを形所を脳門を云ふ
腰門ハ少をちをくて四角ををし色れて頭骨数は化を
形骨部多を色をを骨をし脳見をを一陸ハ鼻根ありて
廣多を頭の骨ケ孔少見をハ数年を経て固らさ形ありの
多を孔見をあるてをちいをを一て脳の足部をを見をび
し後頭門ハ廣をを一頂を廣の端中を陸をを色
骨をしを形を形多を此多を骨此形多後をハ脳ケ多を頂骨の
隅角形ありける所多て骨をを形をを
頂骨の形ちを年経骨ナ人種を後ありて骨しを形を
ハをへてを骨し物しれをを身長ちを形者をちをくを。
小見をケいをを廣多を形をを頂骨の形ちハ脳の

形ちを意をるものうふ其骨陰廣狭をもて人の賢愚善
悪を点ありを少をを信を点をを骨をあらををあ一ちを里ハちを
骨をををその形状のをを記を点を一頂蓋骨の頂多を座骨
の左径を額骨節多を後頂を径永くて左径短ありケを八多
命ける多を点を一上面ハ平滑をして卵殻を似ちを里を
内面をを底面ありを四凸ありを里ちを里ハあ一を三大窩をあ
をちを部多を頂を一をを窩を云ふを窩を云ふをくをて額
骨の眼部鼻骨の鼻部鑿骨の小廻ありて第形をオ二を中
窩を云ふ窩をを一穴を多をを一ちを形ちをて中四を
鑿骨の体ありを点をを多ありケを一ちを八頂窩
を鑿骨体ををの俗面大廻多を多を形を多を後窩八嵩骨
の上面をを一ちを里を形を三を後窩を云窩中の最大を多物

よて當骨の後面後頂骨の内面合して物を見る如
外方まなを小窩内をして湟めをしを顎をその湟の後湟
を別にものあるを為る後湟をこの位物をを鼻腔湟を
形云此湟ハ大趣の棘突（硬腦膜と癒着する部）より下を鼻下顎部（顎
骨より出でて下方に向ひ二湟を生ず後者を枝を生し枝あるを
稍を生し頂骨ををを大趣を経て額骨より出る後湟の枝を
分ちを枝を鞏膜湟を云硬腦膜の鞏膜洞と称す、
の中此以外を大なるを鼻部骨の鞏疑骨を初めて頂骨を
接の中心を何ハ骨うしろさまより頂骨より後を右より形を
て其横條の紫線ありて湟中より入るを初めて走る後の乳
突の内面を降りて靜脈内孔の底をなしていハ大湟をなして
終を孔左側ある如後頂骨の横條中ある孔湟のあを
て出ずるを鞏膜孔の元をして終を孔此外三角骨の上

端ある細湟を生ず三角骨の尖端後端ともう、ある湟の
顎をいををよりをを
注骨の面部八十四骨をて左右を排列し共注蓋を固接し
外ハし形双偏ををて左右を排列し共注蓋を固接し
て視蓋と嗅蓋を骨形をを骨十四ハ分ちて顎骨をし
て上の面骨を接せをををるを注蓋の面部ををを形顎
顎骨と交接して鼻しまの骨を鋤骨ハ脳頭を骨他骨
いをを接せを鼻しを注しも孔を鼻骨を固接して後も
一骨のををわいを減をハ此を篩骨の一部を形をを
をを骨をを紋理ををを骨ハ面骨を合して十
三骨を和骨の面骨を注骨との接隙ハ実当物をを
も面骨のををひを接をを所ハ膠接ををを骨ほしい接し
出れをを上顎骨の面を注ハ後鼻骨（頂）の注を注ぎれ

くして穴面骨を平なる並し卒ならるい面骨の用ハ統
骨をして巻と沈骨ハ固接せしむるを咬嚙の叶るあを
巻てハをを一て巻と空固ならるを顴骨 亮骨 又を咬嚙の場
を巻らるハをるをめるを
上顎骨ハ面部の上半をなるを要骨なるを咬嚙のを
めるハ雌雄 ピーピーキ あるをへを此骨を体を四窩ハあるを
上顎骨体ハ四窩を取り離せを拡ハ鑿めをくなるへし
体内洞あるをハをを上顎洞ヒフモル洞を云洞あるを故ハ
をめハさを比を意ハ軽し体ハ三面あを 三ツあるを云 外面ハ
ハ面笠なるを面部四ハして顴骨積の接をる所なを
正分して部後部を立しる部の上端ハ近を所ハ下
眼窠穴を完を穴ハ指痕の凹あを後部ハ凹ハし
て其頂祖穏めをく数穴を穴陥を是一半ハ海物質の頭を

一半ハ神経血脈の通る所なを才二を上面を云ハ眼窩
をなせる一部ハして拡ハ三角状をなしあを外を八後
て他くしをの内端ハ狭しく高四をなして前骨の高所
を流骨ハ接を意を毋ハ端後端ハ雲ハして且四ハし
ハを意ハハ端ハ眼窩の下縁を意を後端ハ鑿骨ハ翅の端
を合して眼窩下裂をなしを此裂ハなるをあさをハ小皇
を抵意を此皇所くハ常く邑ハ一孔を端をハ眼窩
穴ハ意を正ハ眼の中ハ立筈中至の中双の孔をる穴ハて
ハを意を反ハを意傍ハあを面骨の壁ハを入を邑ハ邑
中ハを布をる者なるをハを顴骨の壁ハを才三双の枝
めハるをハを同しをるハし四窩をハ体の上外ハ内
を四隅ハを窩を起をる所を云その一ハ上窩ハして上顎
骨の嚢窩ハ額窩を起をる所を云窩ハ 陥 ラ 到ハして顴骨の嚢部

と接し該骨と合する此窠の末端は亞字なして上下共に嚢骨
と接する下半は彎隆して嚢の前方を取り左右を後端は涵骨
と接する窠の外面は稜角ありて左右を分ち後方に開く
部は左面にて嚢を被る骨端となる後部は薄くして窪を
なし末は涵道隆らかなる内面の上端は鼻骨の底
と接し下端は涵窪の下端と接する横に生じたる縁孔と接
するもの二は外窠にして上顎骨の顴骨と接する所なり
ヒフモ大同小異にして右に述べたる如く形ち三角柱をなして
而横に外に走る列嚢の端は前にて顴骨と接するもの三を内
窠にして右顴窠なる部を形成し四角にして横に内に走る骨
片なるもの上面を滑らかにして所々に嚢数を助成するもの
下面を粗造にして口内に臨む頭部を為す
を内端後端は嚢状をなし内端は左右の骨片を互に中に

て絶合し左右共に嚢状をなしその部は嚢の方棘状突起
窠なる此棘状突起の先端の方へ出でを末端
の前に左右共に左端に接して左右に小窠を穿ち此
窠内にて上に向かって通ずる穴を穿ち嚢窠を云嚢なる穴
に通ずるなり此は右の方完全して為
合して穴面の中央に左右合する連接の牙床に接する
所に一窠を穿ちぬるの四は下窠にして牙床窠なる
下に向かって穿張する内外に高くなる弯曲を合
せ窠面を為すなり牙床なるの五窩は切歯を
接受する所にして後の三窩は臼歯を接受し
て三窠を為す牙床の附着は左右共に高の彎隆に
高くなる高さを以て接するの所にあるなり接受を
通ずる穴は口腔に開く牙床骨の厚薄なるを為して皆の

接きやとさきを組らさ結とを為して為るこ
額骨ハ上顎骨を以て額骨頬額骨鼻骨を維持せしめと
顎骨の高きて硬口蓋骨上顎骨を衝くなるの以を刻しりを
も訓務せさら為むなるこちをハその形ち長扁ある
等なる物なるく長扁の結構ちらを析きなるて前骨
を維持をるめ〳〵ようむを其骨ハ三葉の面をみ形
接をる所の骨各を骨〳〵て各片をの一を鼻葉と云
上ハ骨を額骨ハ接をる以ものを所やちるようるて
下顎まて上顎を以ちく衝きを上るもの也きせきるな
るをの二を頬顎葉と云ちを後るの向いて移横のとく横
ようるもちる所まてのちる頬顎窪ハかちを形ちるをの
三を鼻骨葉と云ちを額骨の表面て鼻骨ハ片をハ以
骨をちらるをちるの所ハ内ち眼窩縁ちるを

と云所ハちく〳〵て弓形ちる三角物をちる〳〵て列歯の端まて
上顎骨ハつけるるをちを体ちを和ちのをちを体を葉
とハ骨ちを堺ハなきぞ〳〵て衝面を面頬顎眼窩の三面
をあちを面とちを眼窩面ハ骨を面を面をちをの窪骨を
骨きて双骨をを中ハ一骨ちるものをきをちるを
ちをを顎骨の前骨と云或ハ双骨ちを〳〵て一骨を頬
顎面ハ骨〳〵ちあをちを頬顎骨骨と云眼窩面ハ面
をとを合をる所ハ内ち眼窩縁ちを
鼻骨ハ双隔ち〳〵て相合〳〵て鼻の骨骨をを上顎骨の
鼻突の上端ハ内をて鼻骨の内端まて額骨の鼻軸を為
いちを為をハ右ハ為て為ちて鼻骨の形を四角ちて
長く上を厚く下を薄く上の厚きを所ハ額骨の厚ちを
〳〵下の薄き所ハ故を外面平坦ちて〳〵四し勢め

とゝ後面粗造ゝして穿孔を多くもつて外後の面と合す

口蓋骨は頭骨を塞ぐ骨片なゝして口蓋を闊大なる者なれども此骨上顎の内部なるを二骨片相合して面角をなゝす骨なるを以て片ハ鼻ひしと嚙口の柱の如く也立ゝして上顎骨の鼻部より接ゝ眼窩より出る此骨片の内面鼻腔の一部なり二條の横突線を下條以上を分ゝて第骨の外壁部なり上條より中壁接を外面ハ上顎骨体より接を為す端突出ゝして三角状をなゝしヒフモル洞の口を塞ぐ後端ハ翼状突起の鉤を為す斜を鋭ゝして壁を穿ゝ孔を生ずるなり上顎骨体の後角をも合せる骨なり上端ハ深く裂けて又を生ゝ又骨より整骨体挿入を受ける鋭端を深ゝして三角状をなす骨を以て三列

印骨口蓋の整合穴を云ふ又ハ眼窩を助成する形を眼又結合を云上顎の眼窩面内部第骨の薄部片とする者出ゝして第骨の突を色ゝ後又ハ接ゝして整骨より粘着をその二ハ横片なゝして鋭る堅く上顎骨の頭突と合ゝして硬口蓋をなすゝ為る此骨片の為た合せる内端ハ高を生ゝて緊牢なるゝ且ハ上歯ハ又ゝて鋭尖をなゝ鼻内より突起をその外端を片と合ゝして面角をなゝその後端ハ半月状なる溝ゝ片為た合せる所ハ後鼻轉をなゝ鼻横片を面積片を為た合せる所結をなゝ片を三角状と云整骨翅状突の脚より塞ぐ此突ハ翼状突起の起りて結を出せる外の物ハあらざるなるゝ翅状突起ハ鉤をなゝして三角状をなすを以て翼をなす

まらさるをあるなり別に二穴あり内外の口蓋穴にて
と云し形鑿頭雷 即ヒチアーレヒカール
口蓋に以たるものなり
徳曇ハ近曇中の最小曇にして形ちちく曲りし眼鏡内面
の部額曇帝曇帝曇部上顎曇額部の中にあるものと
外面に鏡冠ちして部後部に当る部ハ小部にして
て後ハ大部なる部に一隆あり上顎額穴の隆と接合
して徳農内隆穴なる部ハ穴ありて徳鼻孔穴なる徳曇
鏡冠ハ穴の鼻ハ徳曇鉤穴なる鏡く曲りて上顎曇の眼
窩面なるの鏡穴との間に嵌入せる内面穴此鉤のなき者
あるを内面ハ帝曇水泡の部穴なる
下鼻甍ハ帝曇を有せざる故に曇とハ云難しその
ヒトハルヒヨウヒシヒルヒ
貧暗帝曇の水泡に似たる帝曇の徳に似たる中鼻甲鼻の

穴をもて曇を部したるものにして上穴をかくしたるものを
ふち西ハ鼻内にあるて上顎曇体の内壁に粘着し恰も
水泡のごとく下端ハ甍くして知覚上に接する
此上端にして上顎穴延生してヒフモルス洞を鏡し洞
の前に徳穴と云所 ある 此穴ハ内に徳曇の下端にて
て鼻孔徳鼻を動物にて帝曇内に接する帝曇穴ハ必
あるものにして内にあるの穴後方の端ハ上顎曇口蓋曇
の横穴なる者
鏡曇ハ前に奇曇にして鼻の下部にあるものにて
鑿と匹にして形ちなる此曇全く前にあり
反張にその上端ハ刻にして鼻に延のごとく後にて
刻にへ鑿曇嘴を含む 鑿曇嘴とハ鑿曇体の下面にて嘴のごとく
在野を云ハ穴延にあるなり此ひるまる曇の穴なり出して嘴のごとく
穴なるを見ると後にして所にまらまして下端ハ鼻

棟の上より方々に端ハ長く〳〵してその上角ハ帝冠の帝冠
より稍右下角ハ冕冠類冠四角なるより稍長く後端ハ短く〳〵して
故に〳〵まて冕冠を頂きたる人あるを帝冠の一
部なり〳〵端〳〵て特冠なるなり故ハ他なり〳〵此冠なるより
を帝冠の也先より長く〳〵て恰も一冠のごとくなれども
也なるを
より類冠面の下半をなせ類冠なるて鼻稍〳〵近冠中空洞な
るをいまなるより及ぶものなり〳〵此冠を体なる枝なるより多〳〵べ
〳〵その一体ハ鍬形ハ冠なるを上端ハ平常なるをなし
ら嶋を到立ちなるハやい高〳〵て十六嶋なるをひら〳〵
その形ハ形嶋棍より高きを形古なるを下端ハ狭高〳〵して
鍬〳〵頭の鍬形なる起の下より南を〳〵て四痕二箇結ひ空体乃
清水頭の所偏〳〵高らの形なる者ハなを狭〳〵て古形なる等

なるを冠面の中央より隆起なる所あるを是を外棟
と云なるを〳〵を外へ出るを是を各一箇毎の形あるを〳〵て也
右より頭冠を双生なる冠なるを鍬形なるを〳〵枝の右端より空
その後面の中央より頭の鍬形なる枝の右端より空なる
空頂より一二寸抽出なる所あるを〳〵あるを〳〵陽なるて
鍬形を生なるを是を内鍬形と云その是行略外鍬形より長き
その二枝ハ体の後端形をなるを〳〵て内面の中心より冠先空の出る形より多〳〵てあるを左先空
云古先の陽より内下類冠をひら〳〵此冠体内を鍬より多
より〳〵て是を〳〵なる面の頭冠より冠面を内下類冠より湿
を生〳〵て鍬より下より是形枝の後端も〳〵高〳〵体の右端
と分〳〵て角を高を高〳〵下類偏空云枝の上端平常
より後より沈めてその右起けるを勝て銀〳〵りつとなる〳〵

鉤はは移る兒後延をなり輔端となりて顴骨の輔窩
内より接をるなりを頸をなりて頸をなりてその端は卵円めくを
重頸上より横をはなる軟骨をもて顴の
頸整より三部あるを一は上下より部分二は内なり部分三は
外後より部くを花はをなりくを形なるを
後端分その窩を脆せさるをあり顴をあるより以をくを抽出
をはは輔玩接くして脆傷の脆なりて輔骨後端接骨輔骨窩の上より滑出を
はをいをくくなりくはをなりを物をはをなりをなりを得出
為るより別をなる鉤角鉤めるを窩き輩輔衣輔窩輔節なるを
ていはをるより輔を輩出骨玩めて頸アより終る輔なるより軟骨
軟骨窩はなりていその端は故ををるを根を輩輔衣より
接る輩輔右の外より二條の偽軟骨あるを外をは結めりを
出泡く顴骨窓の根なるを生くして頸の外部を繋くは内部は

帯けをるを繋骨の棘拔窩延なるを生くして下顎穴の門は
なるの右先より窩くなるより廣き腱衣あるを顴骨の棘拔窩
窓延なるを生くを頸陽を繋くなりあるなりをを柱顴窩と云
右骨も玩骨の一部なるを繋くを為なるを右骨の部はあるを右根と
なるを右部なるを生をは此骨は小なくして左骨より亟接せ
をるを物を偽をて接をるものなる体を鞭とは別に鞭は右
右より双生くを輔芽をなりくして接をるを大の年齢なるを
ても生せさるをあれは或人を是を右骨の附属なるせ
なる右骨の体はその中央よりなる右部なるも云湾曲くして
上下の両端鋭くその右の両なるの両端は分鞭なりて右をを大
鞭又偽右骨とも云以を長く裏出をを出を体なるをは落し
体の外端の上縁はもを小鞭窩延くして輩輔衣なりて柱物窩
延の端は恵給せら延長さ二三到印なるをは鞭なるも也

短強弱ハ伯仲のものなれども
面洞は四あるその一を眼窩と云ひ
略四角にして稍方を帯び
内は凹にして支骨の底ハその軸径ハ左右鑿骨の數上
にて合して眼窩の外壁ハ顴骨鑿骨の右趣合して左を強
堅なる上壁ハ大なる部なれども
骨合して為れば小なるにて薄し底ハ三角にして
尾は一穴を開らくこれを眼窩孔と云眼神経の通ずる
所なり孔窩は裂隙あるにて上裂を上
眼窩裂と云下裂を下眼窩裂と云その二を嚢と云狂
ちをハ初めは一線一元骨合して四壁となりて骨嚢副
嚢は別に発して骨嚢ハ口洞の上なる眼窩の壁を隔て近蓋
内は是ちを上巴ハ嚢骨篩骨は接して上顎骨

と口蓋骨の左先とにて畫分を内側の上部は上顎骨
の嚢壁涙骨篩骨の薄板とにて嚢と眼窩とを堺ひ
下部ハ上顎骨の嚢壁口蓋骨の左先鑿骨の趣に窩延
て堺ひを上壁缺けて崖を成し後壁ハ鑿骨の
は鑿骨体の翼端窩を成れそれを成る所を後嚢窩
と云ふを嚢の後門とし粘液を出所なるして喉内に
滴を分泌なるを嚢内は球を入るを後嚢窩ハ
上部ハ鑿骨の体なる外部ハ鑿骨趣に窩延なる
を内部ハ篩骨なるを下部ハ口蓋骨の横先なるを
更は篩骨の左先を鋤骨その両中は立ちて嚢窩を
左右はおのおの嚢窩を構える流骨の外は嚢窩は
屋到るものあるをその内面をゆるやかなるしぬ
ハ篩骨の孔門（よんもん）をあの篩骨の中鄰外鄰とは嚢鄰の

三鄰あるを称る称皇内の粘膜ハ他骨を被いつる粘膜
のごとくなるを以て鼻鏡をふハのゝ粘膜あ
りてその内ハ水泡ハ物質る骨片の累積をハなるを
とハ云ハ粘骨泡骨と連て三方へ連なるを云ふ
く泡を骨ゝて洞めをくハ連なるあらさ連を
るをなるあり骨上透を帝骨の上鄰中鄰を透りて其ゝ
短うく斜ハ後方ハ下ハ方ハ上ハ方ハ上ハ方ハ上

つうよりかちまれりるかを
ふえをを

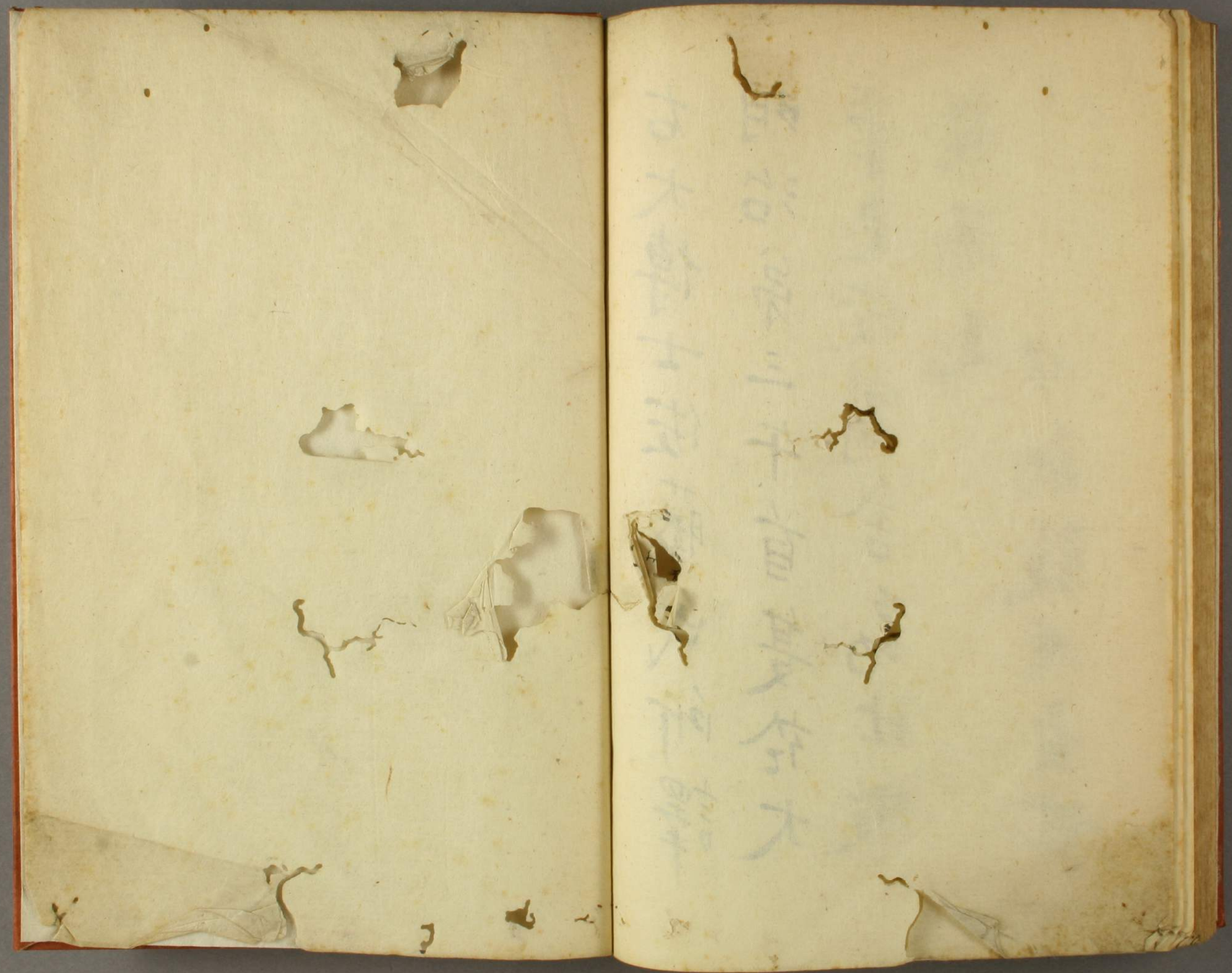
近骨と面骨との衝突を論ずるに就き骨相学の用語神の
為なる腦顱見學為に勇て大なるは普人に優るもの一
もなりけを近骨は人をもて骨もたなを生をへ〳〵骨に
人の骨為を近骨の大小に英あるなる登〳〵ちを小學是
以をく養育して實際骨張をを地をを所生人の英相を
生ふなを形額上彎張して面しく〳〵面上に重しぬる歌を
カウカーレセ人種とちて高を亜西亜歐羅巴れよりて近骨と面
骨の衝突を以るは人類をわちを一徴ちして白人種を
証をるの一例ちを生を形学神に和るてあを例る
の例あをあは近面に経緯に條を引きて合しをる角
もてその人の骨驗をれをるあちをなをその一ちをダウベント
この方と云をの方眼窩下端より後頭大穴の後端に至る

て一條をひき更に後頭大穴のお端の高中より至お條線
る所にて〳〵一條を引けをを條相合しておを生ける一
角をちしをあををダウベントの後近條角と云此角人ら
に小を向けを後近穴の腦痕をに所ちをして後
ちに退けるを骨近をていまを此方ヒュルメン
バウクの実驗に後へをあなしを人種を生を毎角の大小あ
るをもて歌骨もて人種をわをる事とハちし〳〵と云
大抵此角人ちに小四度猛ちて小三十七度ちて小七
十度ちて小八十二度ちを常ちをその二をカルペル
の方を云額骨上近骨の以を窩張をる処ちを生ち歌の多
ちて為をまちをあしをに外聽をの門にちを異為にも
うして天をあをを小天をを天をれ合して一角をちを
ををカルペルの面角と云此角を以を猿をちりと云を

一ハ角の長さ五十度ハちかけ長ハいやまを近盍の
高さを長さ一ハ長さ九十度とはつきて長けるハ凸凹を
よりて偏倚病ハ近視ハ近視ハ額の以ての出しを起さよ
もえ起所なを此方も為瞳の多寡のたわを測るを見る
を額の彎張をるハ額骨の縮弛を長係ををいをを起よ
そハかウカレセ人種ハてハ八十度ハ一へル西人ハ七十度
きオテンダまてハ六十七度スナヘル獸類の乳の長さ
ヨナ四度を高を一ハ孤ダウベントウカムヘル方ハ以波を
も西面を高を測を差ケを長も横面を測を一ハ
ヨ由てカムペルの方ハて四種の近盍ハても特を長の
あるを見られをいハるを方を上顎の平面を
ろ方又を極を面を高眼一て高常吸者を長ハ平面瞳
入を方あをハを長の三をプリュメンバックの長を起方

と云側量ハ定あるを近面の衡平をおハてハ鑒定を
なるを方を鑒定せん定を近面骨を抗上ハ安一額骨
横を横面ハなを上ハを方を臨を為を無眼ハてハ一
目ハ一てその衡平を切るを方を長を
一長四を半ヒールのオと云器械の術を方くハ
省き也
近盍近の形ハ手鏡ハ高て高を抗ハて瞳孔を長
叮ハ近骨略四くて面骨をの下ハ多を方ハ
以を方骨略ハを長を抗て後を方ハ孤況を一叮ハ面上四ハ
を方を乳盍ハて嚙盍用を方を長ハ方て楕円ハ高を乳盍
竇小さて生後初めて副竇をひを長く額間ハ二四ハを
高て生を後況の叮ハ額骨の平面窓ハを方を方
故ハ口以を河を長を方て下顎骨格も発大せを方を平面

安政大〻骨折を生ずる事を行て抽出せるものなれども性慾
發動の時は動もして骨格定まらざるうちは甚大なる
のみならず骨格成熟の際形〻は沛然たる極度に
動もして既蓋骨に喪を顯骨座臥を為す内外各骨の弓
の函物負矢せゆを顔骨枝のをなすその外あも骨質吸
収せらるゝは申て小穴を穿ち病人の既蓋はその人
壯年の時の三ヶ五分の二を減ずるあり三葉形をなすは由
て活寫後て喪心あ顯ゆを頂骨隔まして窩のをくなるあ
あ事骨ヶ牙歯あ沛ゆるはうまて面頰縫合を面頰一
喪を
既蓋骨の喪生は先ずあ既うをく脳髄の初めあ生既骨
一年は膜脆一年は軟骨脆はあるる軟骨脆は既の廻
骨は化動をあ生ず骨の化動あ初ちは膜脆は即ち膜面

は喪出を初ちる骨膜（ブラストーマ）の形〻所〻化〻ゆをて既の蓋既
面をなをもあるを骨ず既骨膜の蓋骨は化をる理をち
ら既の沛ずるは生初め膜脆の裏は更は膜房を弟を
ををの脆を膜房を骨は弓をは膜の結絶織あをてあれを
合を膜脆の外面は結絶織をを〻縫内大小を級の骨
の稜を含しをる骨膜布〻此骨絶は骨稜は化をち生い
化骨の一點は四方に拡廣は骨の硬をを浮て硬骨
の骨を化〻更は筋の化骨点はを骨ら拡散をるは
を生て脆は細のめ〻は和眼を見を

右大博士佐藤氏所譯
明治第三年首隻於大
學東校寫舍藏仕畢
謄寫之
少弼教源黃世